

鉤屋町鈴江家・北限の淡路人形復刻上演

淡路人形浄瑠璃ワークショップ



<江戸時代の浄瑠璃人形>

2015年9月12日(土) 14:00~17:00

もりおか町家物語館 浜藤ホール (盛岡市鉤屋町10-1)

13:30 開場

14:00~14:40 講演

淡路人形浄瑠璃と、盛岡の浄瑠璃人形の発見

監修 淡路人形浄瑠璃資料館 館長 中西 英夫 氏
淡路人形座 支配人 坂東千太郎 氏
鈴江家当主 鈴江 茂 氏

14:40~15:00 講演

最新コンピュータ技術を駆使した浄瑠璃人形の解析とレプリカ制作

岩手県立大学 教授 土井 章男 氏

15:10~17:00 鑑賞と体験 三番叟(説明と実演)

淡路人形座 支配人 坂東 千太郎 氏
竹本 友庄 氏
吉田 新九朗 氏

入場無料



主催：盛岡の人形浄瑠璃復活実行委員会
共催：特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
問い合わせ：もりおか町家物語館 (盛岡市鉤屋町10-8)

平成 27 年度文化遺産を
活かした地域活性化事業

Tel: 019-654-2911 / E-mail: machiya@iwate-arts.jp / HP: <http://machiya.iwate-arts.jp>

淡路人形浄瑠璃ワークショップ

「淡路人形」は、摂津西宮の百太夫（ひゃくだゆう）という傀儡師（かいらいし）が淡路の三條（さんじょ）村（南あわじ市市（いち）三條）に来て人形操りを伝えたことが始まりといわれています。摂津・淡路といえば、現在の兵庫県です。

それが**なぜ、はるばるこの盛岡市鉈屋町に？**と思われる方も多いのではないのでしょうか。

もともと鉈屋町は、北上川の舟運を利用した商人町として栄えた町でした。そこに大きく寄与したのが、上方から移り住んできた近江商人たちだったのです。また、2代盛岡藩主南部重信公は、近江出身の蒲生氏郷の妹を母にもち、上方文化を好んだ人物であったといわれています。近江と盛岡は遠く離れていますが、こうした意外な繋がりがあったのだそうです。そうした経緯や様々な史料から、淡路で人形繰りをしていた鈴江家が南部重信公に請われて盛岡へ移住し、鉈屋町へ居をすえたのではないかと考えられています。

そして**昭和 62 年、盛岡で淡路人形が発見**されたことは、従来の定説を覆す大発見でした。いままで淡路人形が伝わったとされる北限は、福島県だと考えられていたからです。

そんな「北限の淡路人形」ですが、現在子孫の方を中心に、レプリカ作成や北限の淡路人形芝居の再演や継承に向けた様々な取り組みが進んでいます。今回のワークショップでは、岩手県立大学の協力を得て淡路人形の頭部をCTスキャンし、3Dプリンターなど最新の技術を使って造形し、衣装をデジタル・プリントにより忠実に再現した復刻版「北限の淡路人形」を使用して、本場淡路島の方々をお招きしての解説と上演、そして希望者へは実際に人形を操作していただきながらの体験ワークショップを行います。

当日は鉈屋町界隈のまち並みイベント「町家とお八幡さん・め組山車総仕上げ」も行われており、華やかな山車や丁印（山車の原型ともいえる担ぎ屋台）、アカペラ・グループのライブなど見るもの満載で、飲食屋台などの出店もあります。ぜひみなさま誘い合って、鉈屋町に足をお運びください。

